

平成 25 年度事業報告

総括

平成 25 年度の事業としては、

1. 実施事業（継続事業）
2. その他事業（繁殖育成事業、研究支援等事業、検査事業）

について、その充実を図り引き続き実施した。

○総会等（平成 25 年度）

理事会	平成 25 年 6 月 3 日（月）（TKP 新橋ビジネスセンター）
総 会	平成 25 年 6 月 18 日（火）（TKP 新橋ビジネスセンター）
理事会	平成 25 年 9 月 5 日（木）（決議省略）
理事会	平成 25 年 12 月 20 日（金）（決議省略）
臨時総会	平成 26 年 1 月 8 日（水）（書面決議）
理事会	平成 26 年 3 月 18 日（火）（AP 秋葉原）

○会員数（平成 26 年 3 月 31 日現在）

正会員	18 名
賛助会員	0 名

○役職員等数（平成 26 年 3 月 31 日現在）

使用人を兼務する理事（常勤）	2 名
理 事（非常勤）	4 名
監 事（非常勤）	2 名

職 員 32 名 (使用人を兼務する理事 (常勤)
2 名を含む)

パート職員 14 名

一般社団法人への移行

公益法人改革に関連して、当協会は平成 25 年 4 月 1 日に移行登記手続きを行い、同年 4 月 15 日に移行登記が完了した。

実施事業 (継続事業) (定款の第 4 条第 1 項第 3 号業務)

(1) 霊長類関係の研究者及び技術者を対象にした研究助成事業

予防衛生に関する研究者及び技術者の育成を目的として、国内の霊長類関係者を対象に研究助成事業を行った。

実績	(23 年度)	(24 年度)	(25 年度)
研究者	1 名	1 名	1 名
技術者	なし	なし	1 名

選考委員会の審議の結果、研究奨励賞に齊藤暁氏が、技術奨励賞に土屋英明氏が選ばれた。

○研究奨励賞 齊藤暁氏

公益法人エイズ予防財団 リサーチレジデント、博士 (生命科学)

受賞課題「宿主遺伝子情報に基づいた HIV-1 カニクイザル感染モデルの開発」

○技術奨励賞 土屋英明氏

滋賀医科大学動物生命科学研究センター、技術専門職員、博士 (理学)

授賞課題「ヒト医療研究用モデルザル供給ネットワークの構築」

(2) 技術者の育成及び知識の普及

予防衛生を中心とする公衆衛生の向上と科学技術の発展に寄与することを目的として、次の事業を行った。

- 1) 予防衛生協会技術講習会の開催：霊長類関係の技術者等を対象にモデルザル「リアル1号」を使用して、カニクイザルの保定方法・採血方法・経口投与方法・骨髓液採取方法等の技術講習会を次の通り開催した。

日 時	コース	担当者	受講者
H25. 10. 19	初級・初心者	6 名	3 名
H25. 11. 9	初級・初心者	5 名	7 名
H25. 12. 21	初級・初心者	7 名	8 名
H26. 1. 24	初級・初心者	10 名	8 名

開催場所は、いずれも当協会本部（つくば市）

- 2) 「第 17 回予防衛生協会セミナー」を、霊長類関係の飼育管理業務や各種研究に従事する技術者及び研究者等を対象に以下の内容で開催した。

ア) 日 時 平成 25 年 11 月 15 日（金）

イ) 場 所 文部科学省研究交流センター（つくば市）

ウ) テーマ 最近話題の感染症と動物飼育現場での最新技術について学ぶ

エ) 参加者 110 名

1. その他事業（定款の第4条第1項第1, 2, 4号業務）

(1) 繁殖育成事業（独立行政法人医薬基盤研究所からの委託事業）

独立行政法人医薬基盤研究所（以下、「基盤研」と記載する）が行う競争入札に応札し、平成25年度の委託を受けたため、次の頭数について、同研究所の「標準操作手順書等」に基づき医科学研究用霊長類の繁殖、育成、供給等の業務を実施した。

- 1) 1日平均1,534頭のカニクイザル等の飼育管理及び健康管理
- 2) 年215頭の妊娠ザル作出、155頭のカニクイザルの生産
- 3) 年153頭のカニクイザル等の供給
- 4) 離乳仔ザル137頭の内、SRV・EBV・CMV・SFV未感染ザル55頭（スーパーSPF群）とSRV未感染ザル78頭（SPF群）を分離飼育（SRV未感染ザル97%）
- 5) ウイルス検査2,802件、細菌検査218件、寄生虫検査217件、血液・血清生化学検査1,678件、解剖34件、病理検査780件を実施

(2) 研究支援等事業

- 1) 基盤研霊長類医科学研究センター内の共同利用施設等（医科学実験施設及び感染症実験施設）の動物実験棟における医科学研究用霊長類の飼育管理及び研究支援（研究材料採取、手術処置、検査等）を研究者等から依頼されたため、当協会の技術者がこの業務に従事した。

なお、共同利用施設を利用する外部研究者の研究課題の選定に当たっては、基盤研が公募し基盤研の共同利用施設運営委員会及

び動物実験委員会等により審査のうえ決定された。外部研究者等へのサル由来材料分与に関する研究支援は基盤研に承認された研究資料分与同意書により行った。

ア) 研究用霊長類管理延頭数

	23 年度実績	24 年度実績	25 年度実績
医科学実験	57,878 頭	54,768 頭	54,439 頭
P3 感染症実験	22,083 頭	24,248 頭	23,093 頭
P2 感染症実験	5,924 頭	4,834 頭	3,337 頭
非感染実験	7,387 頭	6,911 頭	5,869 頭
計	93,272 頭	90,761 頭	86,738 頭
(対前年度増減数)	(-6,925 頭)	(-2,511 頭)	(-4,023 頭)

イ) 研究用霊長類の 1 日当りの平均管理頭数

	23 年度実績	24 年度実績	25 年度実績
医科学実験	158 頭	150 頭	149 頭
P3 感染症実験	60 頭	66 頭	63 頭
P2 感染症実験	16 頭	13 頭	9 頭
非感染実験	20 頭	18 頭	16 頭
計	255 頭	247 頭	237 頭
(対前年度増減数)	(-20 頭)	(-8 頭)	(-10 頭)

ウ) 平成 25 年度研究課題数

	基盤研	基盤研共同研究	感染研	外部研究機関
医科学実験	5 件	6 件	0 件	16 件
P3 感染症実験	2 件	2 件	2 件	2 件
P2 感染症実験	0 件	0 件	1 件	0 件

非感染実験	4 件	0 件	0 件	0 件
計	11 件	8 件	3 件	18 件

エ) 平成 25 年度研究資料分与等研究支援依頼件数

基盤研	基盤研共同研究	感染研	外部研究機関
0 件	0 件	0 件	11 件

2) 国立感染症研究所が行う競争入札に応札し、委託を受けたため、村山庁舎におけるサル類、モルモット、ウサギ、フェレット等の飼育管理業務、ハンセン病研究センターにおけるサル類の飼育管理及び研究支援業務を行った。

3) 滋賀医科大学からの依頼を受け、約 2 カ月間の労働者派遣事業（獣医 1 名、飼育技術者 1 名）を行った。この事業を行うにあたり、特定労働者派遣事業の届け出を厚生労働大臣当てに行った。

4) 株式会社NAS 研究所（千葉県成田市）から 4 カ月間の研究支援の依頼を受けたため、飼育技術員 1 名を従事させた。

※NAS (Narita Animal Science)

5) 大学共同利用機関法人自然科学研究機構が行う競争入札に応札し、委託を受けたため、生理学研究所ニホンザル出荷等業務（NBR 検疫）を株式会社NAS 研究所の検疫室を借用して行った。

第 1 ロット 15 頭

第 2 ロット 29 頭

第 3 ロット 19 頭 合計 63 頭

※NBR (National BioResource)、文部科学省

6) 検疫については、国内飼育サルの検疫として、霊長類医科学研究センター等への導入検疫を実施した。平成 25 年度の実績は次の

とおりである。(NBR 検疫を含む)

ア) 検疫頭数

	23 年度実績	24 年度実績	25 年度実績
検疫受託頭数	101 頭	53 頭	88 頭
(対前年度増減数)	(+82 頭)	(-48 頭)	(+35 頭)

イ) 検疫サル種

	23 年度実績	24 年度実績	25 年度実績
アカゲザル	9 頭 (1 件)	4 頭 (1 件)	6 頭 (1 件)
カニクイザル	8 頭 (3 件)	23 頭 (2 件)	19 頭 (3 件)
ニホンザル	83 頭 (2 件)	0 頭	63 頭 (1 件)
リスザル	1 頭 (1 件)	0 頭	0 頭
マーモセット	0 頭	26 頭 (2 件)	0 頭

(3) 検査事業

医科学研究等に使用するサル及びヒトの安全を確保するために、前年度に引き続いて次の通り実施した。

- 1) 国内外のサル飼育施設から依頼を受けたサル由来材料についてウイルス抗体検査や細菌検査等を実施した。

平成 25 年度の検査件数は、前年度より 439 件減少した。理由は、NBR 検疫自体を受託したことにより、NBR 検疫内の検査を受託数にカウントしなかったためである。

	23 年度実績	24 年度実績	25 年度実績
検査受託件数	34,647 件	32,395 件	31,956 件
(対前年度増減数)	(+3,432 件)	(-2,252 件)	(-439 件)

(4) 医科学研究用霊長類からの基盤研究資料の構築等

基盤研霊長類医科学研究センターに協力しカニクイザル繁殖コロニーに係る情報のデータベース化を行った。

(5) 技術者の育成及び知識の普及

大学や研究機関等に当協会の技術者を派遣し、研修の実施や飼育技術者認定試験等への協力を通して、知識の普及を行った。

1) 独立行政法人放射線医学総合研究所から、同研究所動物実験委員会委員の委嘱を受けたため、これらに関する技術者の育成及び知識の普及を次のとおり行った。

ア)期 間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

イ)場 所 独立行政法人放射線医学総合研究所

ウ)担当者 小野文子

エ)実 績 2 回

2) 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所長から、ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」の研究遂行を目的とした特別講習会への講師派遣依頼があり、これらに関する技術者の育成および知識の普及を次のとおり行った。

ア)期 間 平成 25 年 9 月 1 日

イ)場 所 名古屋国際会議場

ウ)担当者 小野文子

3) 公益社団法人日本実験動物協会から、実験動物一級・二級技術者資格認定試験官（サル類）を依頼されたため、これらに関する技術者の育成及び知識の普及を次のとおり行った。

ア)日 時 平成 25 年 11 月 23 日、24 日（土、日）

イ)場 所 日本獣医生命科学大学

ウ)担当者 冷岡昭雄、成田勇人

エ)実績 2日間/年

4) 日本実験動物技術者協会関東支部から、役員（幹事）委託を依頼されたため、次のとおり協力した。

ア)期間 平成 24、25、26 年度

イ)場所 順天堂大学 医学部

ウ)担当者 村越等

エ)実績 6回/年

5) 霊長類の研究及び繁殖育成等に携わる研究者や技術者等を会員としたプライメートフォーラムを運営し、会員相互間における意見や情報交換の場を提供した。さらに、このシステムを通して霊長類に関する国内外の最新情報などを収集し、必要に応じて会員（72 名）に配信した。

(6) ホームページの運営

- 1) 当協会の組織及び業務を紹介した。
- 2) プライメートフォーラムを運営し会員の電子会議等の場を提供した。
- 3) その他の関連情報を提供した。

(7) 研究成果の発表

医科学研究用霊長類に係る基盤研との共同研究を積極的に進め、その成果を学術誌や各種学会大会等において発表した。

〈研究論文〉

原著

- ア) Yuki Y, Mejima M, Kurokawa S, Hiroiwa T, Takahashi Y, Tokuhara D, Nochi T, Katakai Y, Kuroda M, Takeyama N, Kashima K, Abe M, Chen Y,

Nakanishi U, Masumura T, Takeuchi Y, Kozuka-Hata H, Shibata H, Oyama M, Tanaka K, Kiyono H.

Induction of toxin-specific neutralizing immunity by molecularly uniform rice-based oral cholera toxin B subunit vaccine without plant-associated sugar modification.

Plant Biotechnol J. 2013 Sep;11(7):799-808. doi: 10.1111/pbi.12071. Epub 2013 Apr 22.

イ) Moi ML, Takasaki T, Omatsu T, Nakamura S, Katakai Y, Ami Y, Suzaki Y, Saijo M, Akari H, Kurane I.

Demonstration of marmosets (*Callithrix jacchus*) as a non-human primate model for secondary dengue virus infection: high levels of viraemia and serotype cross-reactive antibody responses consistent with secondary infection of humans.

J Gen Virol. 2013 Dec 11. doi: 10.1099/vir.0.060384-0. [Epub ahead of print]

ウ) Kobiyama K, Aoshi T, Narita H, Kuroda E, Hayashi M, Tetsutani K, Koyama S, Mochizuki S, Sakurai K, Katakai Y, Yasutomi Y, Saijo S, Iwakura Y, Akira S, Coban C, Ishii KJ.

Nonagonistic Dectin-1 ligand transforms CpG into a multitask nanoparticulate TLR9 agonist.

Proc Natl Acad Sci U S A. 2014 Feb 10. [Epub ahead of print]

<総説>

ア) 岡林佐知

カニクイザルの神経セロイドリポフスチン症 臨床獣医 2013 年 11 月
号【カラーグラビア】Clinic & Pathology 243

<報告書>

ア) 小野文子 他

厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究 食品の安全確保
推進研究 「野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究」
H25 年度 総括・分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症
研究事業 「動物由来感染症に対するリスク管理手法に関する研究」
H25 年度 総括・分担研究報告書

イ) 濱野正敬 他

厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症
研究事業 「動物由来感染症に対するリスク管理手法に関する研究」
H25 年度 総括・分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究 食品の安全確保
推進研究 「野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究」
H25 年度 総括・分担研究報告書

<学会・研究会>

ア) 小野文子

世界におけるサル類感染症の検査メニュー

第 61 回日本実験動物学会総会 (2013 年 5 月) つくば

イ) 岡林佐知 他

地域別食肉用野生イノシシの病理組織学的検索

第 19 回日本野生動物医学会大会 (2013 年 8 月) 京都

ウ) 岡林佐知 他

糖尿病カニクイザルを用いた $A\beta$ 病態の検索

第 156 回日本獣医学会学術集会 (2013 年 9 月) 岐阜

エ) 板垣伊織 他

Tuberculosis in Cynomolgus Monkeys (*Macaca fascicularis*): How to Prevent and Control Epidemic in Monkey Holding Facilities. 6th Asian Meeting on Zoo and Wildlife Medicine/Conservation in Singapore 2013 October, Singapore

オ) 大藤圭子

検体の保存方法 (検査材料の安定性) ～実例に基づく検討～

第 17 回予防衛生協会セミナー (2013 年 11 月) つくば

カ) 岡林佐知

SIV 感染カニクイザルの粘膜下組織を主座とする 多核巨細胞
浸潤を特徴とした慢性肉芽腫性胃炎

第 194 回つくば病理談話会 (2013 年 11 月) つくば